

編集後記

本号は2編の原著と14編の症例報告となりました。全論文に対して、それぞれ専門領域の査読者からの厳しい査読の上、何回も著者とキャッチボールをしながら、掲載となりました貴重な論文であります。著者の先生方も大変であったことと推察致しますが、査読者の方も大変な時間をとって熱心に討議した上で、さらに事務局の人達の多大な努力の上での作品であることを御理解頂きたく存じます。

編集委員会で最も重要な点が新規性があるかどうかであり、その上に消化器外科医にとって教育的意義があるかどうかも評価の基準として重みをもってきます。時に単に施設の症例をまとめただけで、新しい事が言えていない論文が投稿されてくることがあります。前述のごとく新規性がなければ採用されないのは当然のことではあります。各人で投稿の前にもう一度点検して確認をして頂きますようお願い致します。

編集委員はできる限り採用の方向になるように努力しながら、毎月検討しておりますので御理解頂きたく思います。

最近、投稿が急激に増加してしまして査読に悲鳴を上げている次第ですが、これは消化器外科学会会員の先生方の Activity が益々上昇してきている事を強く感じて喜んでおります。どしどし投稿をして頂くことを会員の皆様をお願いして稿を閉じます。

(山岸 久一)